

地区担当（アウトリーチチーム）の取組みについて

平成29年4月地域包括ケアシステムの構築に向けて地域での取組みを推進していくため、各区民活動センター単位で事務職及び医療・福祉の専門職による地区担当（アウトリーチチーム）を配置した。その取組みの現状と今後の課題について報告する。

1 地区担当（アウトリーチチーム）の配置

- (1) 構成員 4名 区民活動センター職員 2名（事務職及び福祉職）

各すこやか福祉センター（兼務）

地域ケア担当 1名（保健師）

児童館職員 1名（福祉職）

- (2) 役割

- ①潜在的な要支援者の発見、継続的な見守り
- ②地域資源の発見
- ③既存の住民主体団体（町会・自治会、民生児童委員）の活性化支援
- ④地域の医療、介護、地域団体等のネットワークづくり
- ⑤区が求める地域包括ケアシステムの姿の共有
- ⑥新しい住民主体活動の立上げ・活動支援
- ⑦地域資源の結びつけ

- (3) 多職種によるアプローチ

地域包括ケアの対象者は、子どもから障害者、高齢者まですべての人であり、複合的な問題を抱えた要支援者に対応していくためには、多職種それぞれの専門性を生かしたチームアプローチにより解決へと導いていくことが必要である。

2 活動区分別の取組み状況

まだアウトリーチチームの活動を開始して半年ほどであるが、徐々にチームの存在が認められ地域の信頼を得るなかで、地域づくりの核として活動の幅を拡げていく予定である。活動区分別の事例は以下のとおりである。

- (1) 個別相談支援活動 ①④⑦

事例1 アウトリーチチームの福祉職である児童館長の気づきから、地域で孤立傾向にある独居高齢者を発見、対応したケース。児童の保護者より、高齢者の情報が得られ、これまで見守りの対象でなかった高齢者の実態を知ることができた。アウトリーチチームの区民活動センター主査、保健師及び地域包括支援センター職員が訪問。民生・児童委員の定期的な見守りと区民活動センター主査の定期的な訪問を継続している。

事例2 民生・児童委員が、以前から見守っていた単身高齢者の認知症状が急速に進行してきたことから、アウトリーチチームに相談。介護や生活支援サービス導入と、実際にサービス提供が始まるまで、食事もままならない対象者を

民生・児童委員、社会福祉協議会の地域担当及びアウトリーチチームが支えた。

(2) 潜在ニーズ・課題発見活動 ①⑤

事例1 町会、民生・児童委員、社会福祉協議会など地域の関係機関と日頃から顔の見える関係づくりを行うとともに、高齢者会館やまちなかサロンとの連携を図り、地域の高齢者情報を収集し、見守り対象の高齢者を発見し支援につなげている。

事例2 地域団体の研修会などで地域課題の共通確認を図り、地域とチームとの連携のイメージづくりを行った。また、チームの役割や活動内容を広く知ってもらうため地域団体向けにチラシを作成・配布した。地域のさまざまな団体等へ積極的に出向くことにより地域の情報提供を受けることができ、地域の潜在ニーズや課題を発見することにつながっている。

(3) 地域社会資源ネットワーク活動 ②③④⑤⑥⑦

事例1 商店街の空き施設（資源）と地域の活動者をマッチングし、住民主体でのサロン事業の立上げ支援を行い、平成29年10月から月1回サロンを開催予定。今後は、町会・自治会や民生・児童委員への協力依頼のほか、児童館長がチームにいる利点を活かし、PTA や子ども育成団体への協力依頼も進めていく。

3 今後の課題

これまでの活動から見えてきた課題は、以下のとおりである。

(1) アウトリーチチームの計画的な人材育成

アウトリーチチームに求められる各職種に共通の職務遂行能力（コア・コンピテンシー）としては、コミュニケーション力・共感力・調整力・福祉領域における基礎知識がある。

事務職には、関連領域における基礎知識を幅広く身につけていることが求められ、係長級職員は、内部事務管理、事業系、窓口系等さまざまな職場での経験を積んでいる者を配置する。係員については、採用後早い段階で、地域の実情を学び、また住民との協働を経験する職場として配置する。

福祉職においては、地域づくりの経験者である児童館職員を配置するとともに、権利擁護や福祉・児童健全育成領域における専門知識を持った社会福祉士資格保有者を配置し、地域の実情を学ぶ職場とする。

医療職においては、母子保健、精神保健福祉、健康推進領域等における専門知識を有するすこやか福祉センター配置の保健師を兼務体制で配置する。

(2) 業務の標準化とレベルアップのためのスーパーバイズ機能の充実

15チーム設置したアウトリーチチームの業務を標準化するために、必要な行動モデルをコンピテンシーモデルとして提示するとともに、その行動段階に応じて必要なスキルを明確化し、人材育成を行う。

また、アウトリーチチーム全員による全体会のほか、すこやか福祉センター圏域ごとに定期的な会議を開催し、情報共有を図っていく。活動事例や個別ケースの相談については、活動記録やケース記録等の共通フォーマット化により、共有しやすい仕組みを整えていく。